

タウンミーティング（玉津校区） 開催報告

- 日 時 令和元年9月18日（水） 午後7時30から
- 場 所 玉津公民館 2階ホール
- 参加者 玉津校区連合自治会長・副会長、玉津連合自治会専門部長、玉津小学校教頭、玉津小学校生徒指導、玉津小学校PTA会長、東中学校長、東中学校生徒指導、東中学校PTA役員、親友会、社会福祉協議会、民生児童委員支部長、消防分団玉津支部長、青年団（2名）、玉の子教室コーディネーター、公民館協力者
市長、経営戦略部長、危機管理監、危機管理課長、地域防災アドバイザー、経営戦略部副部長、広聴係長、政策企画課員
- 傍聴者 25人
- 次第
 - 1 開会
 - 2 挨拶（玉津校区連合自治会長）
 - 3 挨拶（市長）
 - 4 市の主要事業について《市提案》
 - (1) 主要事業の説明（市長）
 - 5 地域課題①「地域防災対策」について《市提案》
 - (1) 課題等の経緯等内容説明（危機管理課長）
 - (2) 意見交換
 - 6 地域課題②「安全で住みやすい地域づくり」について《地域提案》
 - (1) 地域からの提案説明
 - (2) 意見交換・発表
 - (3) 市長まとめ
 - 7 閉会
 - (1) 挨拶（玉津校区連合自治会長）

○会議録

1 挨拶

【連合自治会長】

皆様、こんばんは。大変お忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。今日はタウンミーティングということで、西条市連合自治会と西条市が主催し、地域の方と意見交換をする会となっている。タウンミーティングの一番大きな目標、目的は、なんといっても愛着を持てる地域づくりであり、それにはどういう風にしたらよいかを、各団体の皆様、そして市長も一緒に話し合っていきたい。本日はどうぞよろしく願います。

【市長】

皆様、こんばんは。本日は何かとお疲れのところお集まりいただき、タウンミーティングが開かれることを、本当に有難く、嬉しく思っている。就任して3年が経とうとする中、6月22日の禎瑞地区を皮切りに、来年度予算に反映すべきはしていこうということで、約5か月をかけ、28か所で開催している。

前市長の時にもあったが、どんな開催方法がよいか、今年チャレンジをして、そのチャレンジを評価して来年度に活かすというような形にしていきたい。

玉津地区をどのようにしていこうか、或いは、もう少し視野を広げて西条市がどうあるべきか、といったところをお聞かせいただけたらと思う。よりよいまちの実現のために、地域の愛着、そして誇り、皆様の世代だけではなく、もっと若い世代までその思いをもっていただき、西条に住むこと、玉津に住むことを誇りに思ってもらえるようなまちづくりのために、皆様の声を聞かせていただきたい。限られた時間ではあるが、お付き合いのほどよろしく願います。

広報広聴活動という中で、このタウンミーティングとはまた別のカテゴリーで、井戸端会議、Facebookなどいろんな形で活動している。今日だけではなく、これからもいろんな形でご意見をお寄せいただきたい。また、膝詰めでお話をしたいと思っているので、今後ともどうかよろしく

お願い申し上げます。

2 市の主要事業について

(1) 主要事業の説明

【市長】(参照別紙資料(1))

3 地域課題①「地域防災対策」について

(1) 課題等の経緯等内容説明

【危機管理課長】(参照別紙資料(2))

(2) 意見交換

【参加者】

室川の川底が上がっており、年々水位が上がってきているが、土はとってもらえるのか。

【危機管理課長】

室川については、下流側より先に上流側をとらなければ、また同じように流れてたまってしまふということもあり、現在は、刑務所のあたりをとっている現状だと県から聞いている。改めて、県にも伝えていきたい。

【参加者】

今回、千葉の災害があった中で、災害が起こった後の対策を考えることが、必要だと感じた。市はICTに力を入れているが、もし災害が起こった場合に、ICTを活用して、ボランティアの捌き等、現段階で何かに活用することは考えているのか。

【危機管理課長】

各河川のポイントに危機管理型の水位計を設置し、国土交通省のホームページ(「川の防災情報」)から一般の方も見ることができ、水位がどれくらいになるか、どのくらいで危険であり避難しなければならないのかを知っていただく取り組みをしている。また、防災アプリや、安全安心お届けメールなどを使って、皆様に防災情報を流す取り組みを行っている。

【市長】

水位計のほか、AI機能を活用し、土砂崩れの発生予測の精度をあげていく取り組みもしている。また、災害が起こった時に、情報が錯綜するという非常に困った問題があり、情報の提供は一本化をしていく必要があると感じている。

宇和島では、災害時に行政がだすものは間違いないということで、瓦版的なもので情報を一本化している。また、防災行政無線ではなく、防災ラジオを持っていたことが効果的だったという話もある。一旦災害が起こると、ICTというデジタルももちろん活用しながら、アナログも使わなくてはならない。千葉のように、停電が起こると情報をキャッチする術がなくなってしまい、ICTも役に立たないこともあるので、財源の問題もあるが、チャンネルをたくさん持つことを心がけておく必要がある。間違いのない情報提供をしていくことに尽きるので、ICTのみではなく、様々な情報提供の仕方を整理させていただく必要があると思っている。

【危機管理課長】

補足だが、愛媛県と災害情報システムで情報の管理をすることとなっている。千葉の災害では市の情報がなかなか県に伝わらなかったということもあったが、そういった事が無いよう災害情報システムを統一化し、すぐに報告できる体制を構築している。また、罹災証明や仮設住宅への入居手続きについて市の住基システムを使って簡単に手続きがとれるような形に進めている。そういうものができれば皆様にお知らせする。

【参加者】

専門的なことは市民にはわからないが、近所でもやらなくてはいけないが、災害が起こって二日分の飲み水などが早く届くような環境整備も併せてしていただけるとありがたい。

【参加者】

災害の時、ドローンで情報把握をして、様々な情報が画像で市民に見える形になれば一番わかりやすいと思うが、そういう状況はどうか。

【市長】

ドローンの必要性については、1年前から言っていたが、操縦の問題等があり当時は現場の反応が悪かった。ここにきて、改めて必要性を感じており、遅ればせながらドローンの購入検討や、

企業でもドローンを持っているので、技術などについて、連携を図る必要性は感じている。

【参加者】

実際、自分のところは大丈夫という意識を多くの人が持っていると思う。よって、いかに各個人の意識を高めるかが大切だが、そのあたり、どう対応しているのか。また、千葉では停電によって防災無線が全く使えなかったが、どう考えているか。

【地域防災アドバイザー】

住民向けにマイタイムラインを通じた早めの避難について、4月から約60か所以上回って説明会をしている。しかし、どのタイミングで、どの危険サインを基にするかということが、わからないと意味をなさない。そこで、地区を一緒に歩こうということで、実際に自分の地域の危険な場所を確認するまち歩きを行っている。そういう地道な活動を繰り返すことによって、自分自身のサインを決め、自ら行動するきっかけを持ち、実際に避難することが、一番早いと考え、活動している。

【参加者】

各自治会も行事がかなり多いので、防災に対して話す機会が少なくなっているように感じる。もっと防災関係の情報を地区懇談会のような形で増やしていくしかないと思う。

【市長】

「防災過保護」という言葉があって、「自分の命を行政に任せますか。」ということになってきている。私が、防災行政無線で逃げてくださいというよりも、例えば自治会長が言ってくれる方がリアルである。マイタイムラインなどをベースに、地域のリーダーなどが、声を掛け合う方が、行政が言うよりも逃げる確率が高い。訓練以上にはなかなかできないことなので、何度も何度も、繰り返し行うことが必要である。より多くの人に声をかけていただき、輪を広げていくことも大切だと思う。行政も一緒になってしっかりサポートしていきたい。

情報の提供は、様々な形でしなければならないと考えており、今回の千葉のように防災行政無線が使えなくなった場合に他に何が使えるかということは、調査研究していきたい。市民の生命・財産はしっかり優先して取組んでいきたい。

【参加者】

千葉では、災害の復旧に遅れが出てきている。災害対応について、国がするのか、県がするのか、市がするのか、そういう問題で非常に遅れがでている。極力、災害の処理が早くできて生活がスムーズに復旧できる方法はないだろうか。

【市長】

想像以上に被害が大きかったため、これは市、これは県と言っている場合ではなく、役割分担することが重要である。市の総合防災訓練の中でも、シミュレーションを大切にし、自分達だったらどうなのか、千葉の災害に置き換えて考えてみる、検証することが必要である。

4 地域課題②「安全で住みやすい地域づくり」について（グループワーク）

(1) 発表

【1班】

イベントする時に、行ったら得をするか、もしくは行かないと損をするか、どちらかでないといけない。自分が必要とされているか、私が行った方がいいか、行かなくても一緒か、楽しいか、どうすれば楽しいか、顔を知ったり、居場所を作ったり、雑談をすること、言われた通り話をするのはつまらない。雑談を通して、フランクに話す場があれば、参加する人が増えてくるのではないか。今、親子か子だけかと言ったら、子どもだけの参加が多いようだ。結構、雑用を団体の方が請け負ってしまっているのだから、それも負担になってきているのではないか。

中学校では部活は出ない日は決まっているのか。また、休みはどれくらいあるのか。

【西条東中学校長】

1週間の中で2日間の休みをとるように指導している。これは、全国的な傾向で、平日に1日、土日のどちらかで1日、活動時間は平日2時間、土日3時間となっている。ただし、実際問題として、土日の大会や練習試合などは少し延長した形としている。土日大会が続く場合なども、別の日に休みをとるといった対応している。

【1班】

放課後子ども教室を公民館で実施しているが、小学校が休みの土曜日に需要がある。中学校の

子どもたちも部活がない暇な日にお手伝いができないか。小学生に対する英語教室は少しできるので、英語ボランティアなど、中学生も巻き込めばいいのではないかなと思う。

最後に、玉津公民館の調理室の状況がよくない。調理道具や暖房も冷房も今一つ。一番人数が増えると予想されている玉津で食を中心とした集まりができないというのは困る。皆さんからの寄付なども考えられる。同じ釜の飯を食べることは重要。雑談ができるような集まる場所となるようによろしく願いたい。

【2班】

地域で役をすると損をすとか、自治会に入らなくても生活できるとか、全体的なことを考えていない。子どもが小さかったら、運動会なり、自分の立場としては頑張るが、全体としてはそうしないということを感じている。連自治会のお世話をしているが、玉津の自治会加入率は50%を切っている。これは自治会が全体のことを知っているというのは大間違いで、半分以下のことしか知らないという現状を自分たちで理解しなければならないと思う。

その中で、三世代が交流するには、玉津には祭りだろうということになった。はじめは玉津祭りをしようと思っていたが、青年団の方から、玉津の子どもの祭りをしようとうことで玉の子祭り変わった。これは青年団の声が動かしたという意識がある。玉の子祭りの開催について、初めは学校やPTAの役員会などをお願いに行ったりしたが、よく理解してもらえないところもあった。しかし、やってみたら子どもたちに好評で、小学生が参加してものすごくよかった。今年はお願ひに行かなくても協力体制ができている。地区でいろんな問題があると思うが、来て見てもらえたら、玉津でもこんなことができていると感じてもらえるし、地域にとってよくなる方向にいくと思う。

【玉津小学校】

昨年、玉の子祭りを開催していただき、子どもたちにも好評で、今年もぜひ願ひしたい。また、三世代交流など、公民館を中心にいろんなことを考えていただいている。学校では人手が少ないこともあるが、子どもたちの命を守る水泳のボランティアの派遣や、放課後子ども教室ではパソコン教室、地域未来塾など、いろんな子どもたちの支援を地域の方々からたくさんいただいている。婦人会からは料理教室、社会福祉協議会からは子どもたちの命を守るためにヘルメットの寄付などのありがたいお話もいただいている。それぞれの地域の良さ、団体の良さがあるので、もっともっと小学校としても活用していきたいと思うし、それが子供たちを通じて、地域のつながりに貢献できたらと思っている。これからもよろしく願ひする。

【3班】

自治会の組織運営は負担がかなり大きい。1年間無事に過ごせればそれでいいと考えがちだが、もう少し長期的に自治会を超えた形で、地域で何かやっていくべきではないか。地域に住んでいる方が楽しくやっていくことを基本とすれば、三世代交流など地域活性化に繋がるのではないかな。

【4班】

祭りを通して地域を活性化させたいということで、小学生、中学生に対して太鼓の練習や、伊勢音頭の歌の練習をすることを通じて、参加者の増員を図っている。

自治会会員の数が年々減っている。小学生の数は十年前より今多いが、祭りの参加率は減っているの、それをどうにかしていくのが今後の課題である。

(2) 市長からのコメント

【市長】

館長の説明が素晴らしいと思った。ここまで、課題を整理できているのにもったいないなという感覚がある。地域自治組織を設立した橘地区の真似をするのではなく、玉津は玉津らしくやればいいと思っている。課題解決は、地域によっていろいろだと思っている。先ほどの放課後子ども教室の話があったが、これからの地域は、すべて自治会から浸透するのではなく、自治会も婦人会も社会福祉協議会もPTAも学校も行政もぐると一緒に一つの円になって、課題解決のために、まずは話し合うこと、そして連携を図ること、さらには参加をすること、それをまわしていく。それが地域自治組織であるが、あともう少しのところまでできていると思った。いつやるかという話だ。玉津はまだ人口減少がないが、お世話がしんどくなっている、高齢化や人の固定化もしているし、ずっと同じ人に願ひできるのかといたらできない。このままでいいのか、もう一度皆様の熱い気持ちで、この集まりだけではなく、もう少し大きな集団でやっていかなければ

ばならない。自治会に入っている、入っていないは関係なく、いつやるかということ。やるとすれば熱と本気が必要。玉津はできると思う。

帰りに調理室を確認させていただくが、寄付という意見も一つのアイデアで、こんな発想が必要なのではないかと。ひょっとすると行政に頼らなくても地域づくりができる、地域の中心となるような方がいらっしゃるので、ネットワーク化して地域を守っていく、ここまで課題ができているのであれば、みんなで話し合えば、解決できるのではないかと。

橘地区では、一つの課題の中に買い物があった。近くにスーパーがない。慈善事業ではないので店をもってくることは無理、となるとどうしようかと考えたときに、買い物ツアーという案がでた。若い人がジャンボタクシーを手配し、フジやマルナカに買い物に行くというもので、大変好評だった。ただ、毎日難しいので、ローソンの移動販売車がきてくれた。私が橘地区にお願いしているのは、地域でこのローソンの移動販売車を育てるという覚悟があるか、地域が支えなければ、この移動販売車はなくなる、そういう覚悟をもって臨んでいただきたいということ。地域づくりのためには本気度、熱が必要である。行政はしっかりサポートしていく。そして、人と財源を公民館単位で配る。既に、これだけの課題をあげているのだから、もう少し頑張れば、玉津がリーダーになるかなと思うので、私たちも一緒に走るの、お願いしたい。

5 閉会

【連合自治会長】

本日は貴重なご意見本当に感謝申し上げます。皆様も、地域に帰られて今日のことを、ぜひ広めていただきたい。とにかく、地域が支えあい、仲良く、楽しい雰囲気をぜひ作っていただければ、今後、一步一步着実に進めていけるのではないかと。本日は長時間感謝申し上げます。

(閉会)

<タウンミーティングの様子>

